愛三時報　2019年（平成31年）1月26日（土曜日）

トコトン楽しんで

一色高校和太鼓部演奏会

3・24 一色地域交流センター

入場無料
来場歓迎

十代が体力勝負、真剣勝負の一日ツーステージに挑む！

「どんどん会場へ来て」と、県立一色高校和太鼓部「いっしき」の第13回演奏会は3月24日、一色地域交流センター（一色町公民館）で行われる。入場は無料。

出演は、一色高校和太鼓部「いっしき」と同校和太鼓部OB、OGのみなさん。

当日は2回公演で、午前の部が午前10時、一方、午後の部は午後1時30分開演。開場はそれぞれ開演の30分前。

また、当日演奏する曲は「海祭～四季に生きる～」をはじめ、「大地」「天地」「愛郷～伝統と創造～」「華」「NO・RO・SHI」など。

演奏会を「トコトン」楽しんでほしい主催者ではたくさんの来場を歓迎。予め次のように呼びかけている。

「午後の部は混雑が予想されます。収容人数に限りがありますので、午前の部へのご来場をお勧めします。また、開場までお待ちいただくことになりますが、お待ちいただく場所に椅子等はありませんのでご了承ください」

一色高校和太鼓部「いっしき」のみなさん。写真は昨年11月4佐久島で行われた第10回佐久島太鼓フェスティバルでの一枚

一色町の賑わい創出へ

新メニューや観光コース発表

西尾南部ベイエリア協議会

今まで個々に輝いていた魅力を結びつけ、三河湾に面した一色町に賑わいを創出して地域の活性化をめざそうと設立された西尾南部ベイエリア協議会（山本浩二会長）は27日、2018年度の成果報告する事業発表会を西尾コンベンションホールで開いた。

農業・漁業を中心とした産業や観光、文化に特色のある一色町の一色港に、一色うなぎ漁協が「一色うなぎレストラン」を建設することをきっかけに発足した同協議会は、漁協や商工会、観光関係の11団体と行政で構成している。

農林水産省の農山漁村振興交付金の農泊推進事業と人材活用事業（総額約1050万円）を活用し、NPO法人西尾幡豆まちづくり観光プロモーションの都築貴弘理事長や愛知淑徳大の谷沢明教授、地元一色高校、愛知淑徳大の学生などの協力で特産品の新メニュー開発、体験プログラムの創造、観光案内人育成を三本柱にしてSNSでの情報発信などの事業を展開してきた。

「一色十色（いっしきといろ）」をコンセプトした発表会には約120人が参加。主催者あいさつに立った山本会長は、事業による地域の活性化へ期待を込めた。来賓祝辞で西尾市の長島幹城副市長は、一色漁港周辺エリアを西尾南部ベイエリアと命名して活動した同事業について「観光立国をめざす国の施策に沿った全国に先駆けた事業で、タイムリーな企画。今年6月にうなぎレストランがオープンし、一色さかな広場や一色さかな村、佐久島と合わせて三河湾屈指の観光エリアとなる。この事業を一つの契機として、ますます大勢の観光客を迎え、このエリアがさらに発展することを期待している」と述べた。

事業概要の報告のあと、都築理事長がコンセプトを説明。新メニューの発表では一色高生が「う～なつ」と「うなぎHARUMAKI」、レストランテキサクの和田圭太郎さんらが「一色苺パフェ」と「一色苺のスムージー」、出張イタリア料理alvearesの市川永里子さんらが「サツマイモのニョッキ」と「アカモクドレッシング」を紹介し、試食会も開かれた。参加者は特産品を使った新しいアイデアの味を堪能した。

体験プログラムの発表では、愛知淑徳大の学生が「Do You Know ところてん？」「漁船体験」「ベンガラ染めの手提げづくり」を説明。観光案内人の育成講座を受講した人たちがおすすめの観光コースを紹介した。

佐久島の特産品を使った新メニューを発表する提案者

試食会で特産品の新メニューを味わう参加者たち

三　河　新　報　2019年（平成31年）1月29日 火曜日

ベイエリアの魅力発信

西尾南部協議会　事業「十人十色」提案

一色うなぎ漁業協同組合が一色漁港にうなぎ食事店舗「うなぎ処いっしき」を建設するのを機に、地域全体で誘客を図ろうと同組合など十四団体で本年度設立された、「西尾南部ベイエリア協議会」の事業発表会が二十七日、西尾駅西の西尾コンベンションホールで開かれた。特産品新メニューや体験プログラム、観光コースが提案され、具体化に向けて来年度、検討を重ねていく。

同協議会は本年度、農林水産省の農山漁村進行交付金事業を活用し、今まで個々に輝いていた魅力を結び付けて大きな輝きにしようと、特産品や新メニューの開発、体験プログラムの創造、観光案内人の育成、会員制交流サイト（SNS）による情報発信などを実施してきた。

協議会構成員と関係者による協働のもと、地域がより活性化し、西尾南部ベイエリアがにぎわいのある地域になるよう、本年度事業の成果を報告する事業発表会を行う運びになった。

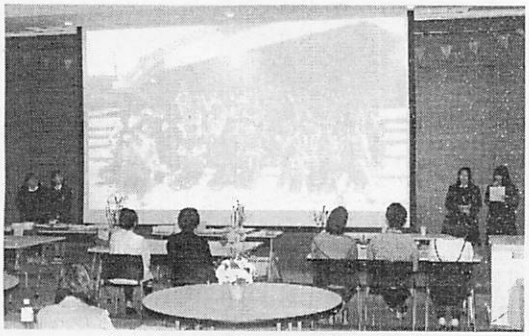
特産品を使った新メニューを味わう参加者

関係者約百二十人が参加したこの日、あいさつに立った会長の山本浩二一色うなぎ漁業協同組合代表理事は「平成二十三年に一市三町が合併し、西尾市は農業・漁業・商業・工業といった多くの資源を抱擁した。平成三十年、西尾市をもっと元気にするため、陸海の産物を融合させて食、遊び、宿泊、観光、商業を発展させようと、当協議会を発足した。戦国武将の毛利元就は息子の三兄弟に『三本の矢』での結束を求めたが、当協議会も海の産物、陸の産物、商業の三本の矢を国・県・市で支え、さらに市民が支える力強い事業を展開していく。今回は途中経過の商品を見てもらい、感じてもらい、意見を頂きたい」と述べた。

あいさつする山本浩二会長

来賓を代表して西尾市の長島幹城副市長は「一色地区の漁港周辺は三河湾屈指の観光エリアとして、さらなる発展を期待している。一色高校などの協力で西尾の産品を使った料理や体験プログラムの提案を楽しみにしている」と祝辞を述べた。

NPO法人西尾幡豆まちづくり観光プロモーションの都築貴弘理事長が、同協議会の事業「一色十色（いっしきといろ）」について、ロゴマークやコンセプト、SNSによるPRなどを紹介した。



新メニューを発表する一色高校2年生

続いて、地場産品を活用した特産品の開発について、一色高校生活デザイン科二年生が開発したウナギのドーナツ「うなつ」とウナギの春巻き「うなHARUMAKI」、一色町の喫茶店で「スバコ」の加藤寿枝さんと「カゴヤ」の名倉慶行さんが開発した「一色苺のパフェ」「一色苺のスムージー」、佐久島の喫茶店「オレガレ」の加藤麻紀さんが開発した「さつまいもニョッキ」「アカモクドレッシング」が紹介された。

その後、試食に移り、来場者は担当者の話を聞きながら、味、見た目、お勧め度について五点満点での評価を行い、適切な金額も提示した。

このあと、愛知淑徳大学の協力で考案された体験プログラムの提案があり、▽うなぎのかば焼き体験▽荷ざばき所の見学▽「サクのいも」を使った鬼まんじゅう作り▽ベンガラ染めの手提げ作り▽DoYouKnowところてん？▽シーグラスのアクセサリー作り体験▽昔ぐらしたいけん▽漁船体験▽魚のさばき体験ーの九プランが紹介された。

最後に、観光案内人おすすめコースとして、「佐久島『なるほど』アートツアーと大提灯歴史旅」「三河一色旧街道を歩く（大提灯と歴史遺産探訪）旅」の二コースが提案された。

同協議会の構成団体は次の通り。

一色うなぎ漁業協同組合、西三河漁業協同組合、一色さかなセンター、西尾市観光協会、一色町商工会、衣崎漁業協同組合、島を美しくつくる会、佐久島観光の会、NPO法人西尾幡豆まちづくり観光プロモーション、三河一色さかな村、一色魚仲買人組合、西尾市佐久島振興課、同商工観光課、同農林水産課

愛三時報　平成31年1月31日(木)

卒業作品展「姫きもの・ドールハウス展」

一色高校生活デザイン科3年生

入場無料
来場歓迎

2月9日、錦城町の旧近衛邸

県立一色高校生活デザイン科3年生39人による卒業作品展「姫きもの・ドールハウス展」は、2月9日午前10時から午後3時まで錦城町の西尾市歴史公園内旧近衛邸で開かれる。

入場は無料で、同校では次のように話し、多くの来場を歓迎している。

「姫きもの」とは、まず古い着物をほどき、このあと「洗い」「干し」「アイロン掛け」の作業で生地を蘇らせ、その後、柄合わせをしながら、ミニチュアサイズに仕立て直したものです。豪華な刺繍のある留め袖をほどいて、仕立て直す作業にかかった時間はおよそ30時間。着物のうしろ姿は一連の絵画のようです。

また、「ドールハウス」は「私のほっとできる空間」をイメージして15分の1の縮尺で制作しました。家具やソファー、窓、内装などこだわりを持って作りました。個性あふれる作品をぜひ、ご鑑賞ください。

このほか、生活デザイン科ファッションデザイン3年生19人は、授業で「着付け」も学んできました。当日は自分で着付けた着物姿でおもてなしをします。ぜひ、来てください。

三　河　新　報　2019年(平成31年) 2月2日 土曜日

姫きもの＆ドールハウス

一色高生が卒業作品展

9日 歴史公園旧近衛邸で

県立一色高校生活デザイン科の三年生三十九人の卒業作品展「姫きもの・ドールハウス展」が九日、西尾市錦城町の同市歴史公園内「旧近衛邸」で開かれる。

「姫きもの」は古い着物をほどき、洗いや干し、アイロンかけといった作業を経てよみがえらせ、柄合わせをしながらミニチュアサイズに仕立て直したもの。卒業作品展として企画した。

生徒たちは「姫きもの」を考案した名古屋市熱田区の古裂（こぎれ）美術工房の指導を受け、「姫きもの」を製作。豪華な刺しゅうのある留め袖をほどき、仕立て直す作業にかかった時間は三十時間に及ぶ。

また、ドールハウスは「私のほっとできる空間」をテーマに、十五分の一の縮尺で家具や窓、内装といった家の中の生活空間を表現している。

当日は着付けを学んだファッションデザインコースの生徒十九人が着物姿で出迎えるという。

時間は午前十時から午後三時。

生徒たちは「姫きもの後ろ姿は一連の絵画のようです。私たちの学習成果をぜひ見に来てください」と案内している。

製作したドールハウスと生徒たち

愛三時報　2019年（平成31年）２月１０日（日曜日）

「姫きもの・ドールハウス展」が行われた錦城町の旧近衛邸

「服の日」に―姫きもの展など行う

一色高生活デザイン科３年生

県立一色高校生活デザイン科３年生39人による卒業作品展「姫きもの・ドールハウス展」が９日、錦城町の西尾市歴史公園内旧近衛邸であった。

特にファッションデザインコースの生徒19人は、学校で「着付け」も勉強しており、この日は一部の生徒が着物姿。（39人のうち、20人はフードコース）

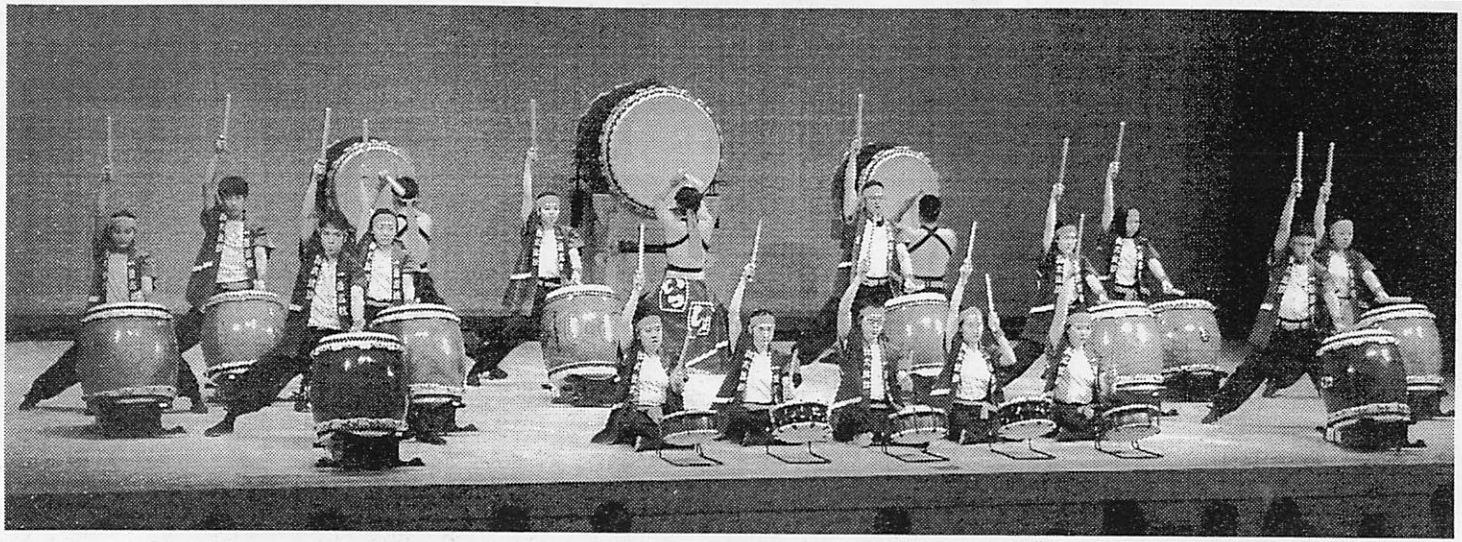
また、作品展が行われた日は丁度、「服の日」（２月９日）だった。

「服の日」に着物姿や制服姿の生徒は、来客を案内しながら、古い着物をミニチュアサイズに仕立て直した「姫きもの」などについて説明。

第3種郵便物認可　三河新報　2019年（平成31年）3月26日 火曜日　（2）

息の合ったばちさばき

一色高和太鼓部　演奏会で聴衆魅了



息の合ったばちさばきを見せる和太鼓部の皆さん

県立一色高校の和太鼓部「いっしき」の一年間の活動の締めくくりとなる第十三回演奏会（三河新報社など後援）が二十四日、西尾市一色地域交流センターで開かれ、練習で鍛えたばちさばきで訪れた地域住民らを魅了した。

演奏会は、午前と午後の二回公演で行われ、第一部と二部では部員が「海祭～四季に生きる～」や「大河」「愛郷～伝統と創造～」「秩父屋台囃」などを演奏した。

第三部は、OB・OGも加わっての合同演奏となり、プロ奏者の山田純平さん＝西尾市米野町＝が作曲し、今月十七日に行われた「西尾千人太鼓」で披露された「NO・RO・SHI」の第三・五楽章を演奏。息の合った迫力の音色が会場の空気を激しく震わせた。

村瀬正幸校長は「今年の卒業式で送辞に立った和太鼓部の二年生は、和太鼓がやりたいと一色高に入り、演奏前の打ち合わせでは涙を流して議論を交わすことがあると語った。そんな生徒たちを頼もしく思う。本校は来年度から新しい学校プランを実施していく。今回はそのプレ演奏会に相当する」と述べた。

同部は、二〇〇五年九月に和太鼓同好会として発足。〇六年度に部に昇格し、現在も町内の保育園やイベントで演奏活動を展開している。